

## 農閑期はモミガラ堆肥作り

モミガラ堆肥作りの際によく出る質問は場所と時間に関するものです。積み込む場所は水の確保が簡単であること、必要な時間は60日程度。他には発酵の温度などにも気を付けるべき点があります。

半世紀もの間、弊社が農家さんとともに作り続けてきたモミガラ堆肥。

初めて作ってみるといふ農家さんのもとへは、ごあいさつも兼ねて弊社営業部が伺い、堆肥作りのご指導をすることもあります。そこでよく尋ねられるのが“時間”と“場所”についてです。

堆肥作りにかかる“時間”は最短で約60日。パンフレットにある様に、積み込みから20日目の最初の切り返しと40日目の2回目の切り返し。さらに20日間ほど置いておけば、あとはいつでも使用可能です。暖かい時期に積み込む時は、熱が入り過ぎてしまう心配があるので、1回目の切り返しを15日目に、2回目を30日目に行うのが良いでしょう。発酵の温度は60℃が理想です。

また“場所”についてですが、左の写真の様に畑の隅など、どこでも作ることが出来

ます。コンクリートを打っていないといけないという事はありませんし、パンフレットにある様な枠で囲わなければならないという事もあります。田んぼの真ん中でも、ハウスの中でも、臭いもほとんど無いので住居の近くでも作ることが出来ます。ただ、大切なのは積み込みの時に必要な水を確保できる場所を選ぶことです。

それから、もう一つよく尋ねられるのが『寒くても作れますか?』というご質問です。右の写真は北海道の1月の風景ですが、写真中央のこんもりした部分はモミガラ堆肥の山です。その周辺は1m以上もの雪が積もっていますが、頂上部が少し黒く見えているのは発酵熱が雪を溶かしている証拠(右写真矢印付近)。つまり、寒くても堆肥が発酵することは可能です。とはいえ、雪が積もる前であれば、堆肥を積む作業は出来ませんけども...。



長野県伊那市のモミガラ堆肥現場。



北海道美唄市のモミガラ堆肥現場。